

病態制御研究部門

Bioscience

複合薬物薬理学分野

Medicinal Pharmacology

教授 (前) 松本 欣三 Kinzo Matsumoto
准教授 東田 道久 Michihisa Tohda
助教 (前) 藤原 博典 Hironori Fujiwara

◆ 研究概要

研究目的：和漢薬には独特な個性と独自の理論基盤がある。生体反応に寄り添った作用であることや、生薬の組み合わせで標的と治療に対する特異性をもたらしていることなどである。それらの和漢薬の独創性を一義的に考え、生薬の組み合わせによる作用変化の解明、和漢薬に純薬西洋薬を付加することによる和漢薬効果の先鋭化、ならびにそれらの作用機序としての生体分子と作用微量成分の解明を目的とした研究を目指している。

現在の主な研究テーマ：1) 和漢薬理論に対するエビデンスの提供とそれを基盤にした新たな研究戦略の提供、2) 生体反応に寄り添った和漢薬独自の作用の解明とそれに基づく計量薬理学を打破する超低濃度作用薬の開発、3) 和漢薬理論に立脚したうつ病の分類、発症機序の解明と、新規抗うつ薬の開発、4) 抗がん薬副作用性心不全および致死性再発心筋梗塞を予防する新規和漢薬処方の開発。

◆ 原著

- 1) Pham HTN, Phan SV, Tran HN, Phi XT, Le XT, Nguyen KM, Fujiwara H, Yoneyama M, Ogita K, Yamaguchi T, Matsumoto K. *Bacopa monnieri* (L.) Ameliorates Cognitive Deficits Caused in a Trimethyltin-Induced Neurotoxicity Model Mice. *Biol Pharm Bull.* 2019 ; 42(8): 1384-93. doi: 10.1248/bpb.b19-00288.
- 2) Tantipongpiradet A, Monthakantirat O, Vipatpakpaiboon O, Khampukdee C, Umehara K, Noguchi H, Fujiwara H, Matsumoto K, Sekeroglu N, Kijjoa A, Chulikhit Y. Effects of Puerarin on the Ovariectomy-Induced Depressive-Like Behavior in ICR Mice and Its Possible Mechanism of Action. *Molecules.* 2019 Dec 13; 24(24). pii: E4569. doi: 10.3390/molecules24244569.

◆ 総説

- 1) Ueoka I, Pham HTN, Matsumoto K, Yamaguchi M. Autism Spectrum Disorder-Related Syndromes: Modeling with *Drosophila* and Rodents. *Int J Mol Sci.* 2019 Aug 21; 20(17). pii: E4071. doi: 10.3390/ijms20174071.
- 2) Matsumoto K, Fujiwara H, Araki R, Yabe T. Post-weaning social isolation of mice: a putative animal model of developmental disorders *J Pharmacol Sci.* pii: S1347-8613(19)35719-6. doi:10.1016/j.jphs.2019.10.002.

◆ 学会報告

- 1) 東田道久, 細貝春香. 生体内抗うつ関連候補因子 BNIP-3 の mRNA 発現に及ぼす各種生薬エキスの効果. 第36回和漢医薬学会大会 ; 2019 Aug 31-Sep 1 ; 富山.
- 2) 趙慶峰, 東田道久. 抗がん剤ドキシソルピシン誘発性遺伝子発現変化に及ぼす人参附子湯の効果. 心疾患予防薬を目指した研究(1). 第36回和漢医薬学会大会 ; 2019 Aug 31-Sep 1 ; 富山.
- 3) 鈴木玲奈, 東田道久. 大黄に含まれるリグニンの薬理活性に及ぼす作用に関する考察. 第36回和漢医薬学会大会 ; 2019 Aug 31-Sep 1 ; 富山.

◆ その他

- 1) 東田道久. 和漢薬知統合学. 富山のくすし・漢方医学と生薬講座 ; 2019 Sep 14 ; 富山.